

2017年7月12日

「煙突にマスクを掛ける」特許権を企業に譲渡

昨日、武漢紡績大学研究チームは“煙突にマスクをかける”特許権を1000万元の金額で応城天潤産業用布有限責任会社に譲渡した。特許の産業化は鉍工業企業の大気汚染物質の超低排出実現を後押しする。

国は石炭を燃料とする発電ボイラーの超低排出のレベルアップと改善を要求している、しかし、市場で手に入る使用材料では需要を満たす事が出来ない。

紡績大学材料学院副院長がチームをリードし、実験を繰り返して8年間を掛けて更に細いポリスチレン硫黄エーテル(PPS)繊維を作り出した。その直径は通常の繊維の1/10にも満たず、それにより新型フィルター材料が完成した。

紹介によると、当フィルター材料は強度が高く、高温に強く、通気性も良いという、テストで分かったが、当フィルター材料はPM2.5に対する濾過効率が99%以上、調合技術は簡単、使用寿命は長い、広範的に冶金、熱電、セメント、ごみ焼却時などの高温ガス粉塵処理に応用できる。

応城天潤産業用布有限責任会社は、特許買取り後生産ラインの建設を始め、新フィルター材料を作ってから市場に出す。

2017年7月13日

光谷がドイツの定年「職人」千名招聘

10日、中国光谷瞪羚企業国際交流団はドイツでの視察を終えて武漢に戻った。このたびの視察で関連機構のコンセンサスを得て、ドイツで定年した高級技師、高級工芸師、高級デザイナーを千名招聘し、志願者にチームを組んで武漢に来てもらい、深くドイツの職業精神を“接ぎ木”し、20年間を掛けて武漢制を世界の逸品に変える。

調べによると、ドイツの定年“職人”は武漢に来て、半年間仕事をする。企業は食事、住宅、往復の交通費、そして月に一万元の手当てを提供する。目下、本プロジェクトを積極的に進めているところである。